

## D. 結論

### 1. 食事行為の課題解決に関する分析

#### 1) 有効情報

食事行為に関する課題に共通する傾向は、介護者の対応状況や他者との関係性や職員との関係性など人間関係が重要視されており、次いで嗜好、興味、満腹感など心理的な側面、表情や行動など本人の様子、周囲の刺激など環境面に関する情報の選択率が高い傾向にあった。逆に、健康面や認知機能、口腔機能等に関する情報の選択率はやや低い傾向であることが明らかとなった。つまり、健康状態や認知機能は課題の原因になっている可能性が高いが、対応やケアにとって直接的に有効であると判断される傾向が低い事を示している。逆に、実際の対応やケアの実行時に有効であるのは、介護者が現在行っている対応やケアを、高齢者の状態や心理を確認しながら評価している傾向が推測される。そして、本人の意図や興味、関心を現在の様子や過去の生活歴から推測し、本人の気分や行為に応じた臨機応変な対応へと結びつける事が課題解決の重要な視点であることが示唆されたといえよう。さらには、認知機能や口腔機能、身体機能等の選択率があまり高くない理由としては、有効情報の種類が多く、アセスメント視点の多様性によって選択率が分散された可能性が推測される。しかし、心理的な側面や他者との関係性に関する情報選択率の高さは、多くの解決方法において有効な情報であることを意味しているため、いわば方法に特定されない情報であると考えられる。

食事拒否課題の特徴は体調を有効な情報とする割合が高く、過剰要求と異なって、食事を食べない状況について体調不良が原因であると推測されている傾向が認められている。食事中断課題における特徴的な傾向は、周囲の刺激や席の位置などを有効情報と選択する割合が特に高く、環境からの刺激や食事環境を食事中断の原因と推測する傾向が高い事が示唆された。

食事行為に関する課題全体に関する有効情報の傾向としては、認知機能や健康に関する情報は、課題を解決するための有効な情報としては最重要視されない傾向にある事が明らかとなった。認知機能や健康状態は、食事過剰要求や食事の拒否や中断といった行為の原因の一端になっていることは容易に推測されることであるが、それらの情報を利用した対応は短期的な対応よりも長期的な対応や取組みにとって有効な情報である可能性が高いのではないだろうか。つまり、課題を解決するためにすぐに役立つのは、職員との関係性や、高齢者本人の表情や様子、心理、興味や、周囲の刺激や席位置など環境面、食事自体の方法に関する情報であり、これらはいわば短期的な取組みに役立つ情報群と推測される。過剰要求課題と中断、拒否課題における有効情報の差異については、食事を摂取しない理由としてより健康状態や身体状況を原因として推測する傾向が高いことが明らかとなった。さらに、途中で食事をやめてしまう原因としては、環境刺激の問題が特に重要視されている事が

示唆された。

これらの結果から、食事行為に関する課題解決に有効なアセスメント視点では、長期的な対応視点として認知機能や身体状況を確認しつつ、高齢者本人の気分や興味、関心を評価し、それらの状況に応じて、職員の声かけや介護方法を見直し、食事の内容や食材の質、食器、食事方法や、席位置、食事メンバー、周囲の刺激などを評価し調整している傾向が伺える。

## 2) 解決方法

食事過剰要求、拒否、中断に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、食事方法の工夫、活動方法の工夫、その他に分類された。特に声かけや誘導、環境調整、食事の工夫については実施率が高いが、ほぼすべての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。3課題の共通傾向については、声かけも誘導も本人の状態を評価しながら本人のペースや状態に応じた方法が効果的であると推察される。特に食事の工夫は、嗜好に応じた献立、食材の質、量でなされており、認知機能を考慮した食器の工夫も特徴であった。環境の調整については周囲の明るさや音、食事人数、食事メンバー、席の位置など他者との関係性も考慮した人的な環境調整も効果的な方法であることが示唆された。食事行為特有の方法として、生活リズム調整や体調の調整を考慮した活動の工夫も特徴であった。その他としては、水分補給や排泄調整、義歯調整など健康や身体状況に応じた解決方法もみられたが実施率があまり高くなく、これらの方法は長期的な取り組みとして実施される傾向が推測される。

## 3) 有効情報と解決方法の組み合わせ

食事行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、食事過剰要求課題13パターン、食事拒否課題15パターン、食事中断課題15のパターンに分類された（表2-11-1-1、表2-11-1-2、表2-11-1-3参照）。さらに身体状況、心理、認知機能、食事状況、人的・物理的環境、その他の6つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、6つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、食事の工夫、活動の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。そして、有効情報の種類によらず実施される方法はほぼ共通している傾向が示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、水分補給、口腔状態と義歯調整や食物形態の変更、人間関係と席位置の変更、人間関係とコミュニケーションの増加、食事の嗜好と献立の



変更、食事量と盛りつけや品数の変更、睡眠状況と睡眠の促しや運動量の増加等であった。これ以外の心理や認知機能については、声かけ、誘導、食事の工夫、環境調整等が複合的に実施されており、全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

## 2. 入浴行為の課題解決に関する分析

### 1) 有効情報

入浴行為の課題解決における有効情報の傾向は、清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否いずれにおいても心理や気分、職員との関係、職員の声かけや対応などの介護方法、性格が重要視される傾向が認められた。逆に、認知機能や健康面、身体機能等は重要視される傾向が高くなかった。つまり、課題の原因として認知能力が主要な要因であったとしても、実際の対応時には、本人の気分や心理が重要視され、日頃の職員との関係や現在の対応方法や声かけを把握し、評価することが解決時に役立つ情報である傾向が示唆された。そして、いずれの課題においても性格を重要な情報として認識している傾向が認められており、入浴に関する課題が本人の性質によって生じているものと捉えられている傾向が明らかとなった。特に、洗髪拒否課題においては、洗髪時の反応や湯温、洗髪習慣が重要視されている点が他の2課題とは異なる特徴であった。

これらの傾向から、食事や排泄とは異なる入浴行為の特性が明らかとなったといえるだろう。つまり、食事や排泄行為は生理的な欲求を起因とした行動であり、生命維持機能といった側面から捉えれば、生物にとって必ず必要な行為であるが、入浴は欲求から起因するというよりも清潔保持を第一義的な目的として、血行促進や気分転換、習慣、あるいは好き嫌いといった入浴行為に対する考え方や嗜好と深く関与するいわば個人の恣意性に強く影響をうける行為である。よって、認知機能の低下等による影響があるとしても、個人的な入浴に対する習慣や考え方など個別的な要因に関わる行為であることから、課題の原因を個人的な特性に帰属させる傾向が強いものと考えられることができるだろう。

### 2) 解決方法

清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、入浴や清拭、洗髪方法の工夫、介助者の工夫、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。3課題の共通傾向については、声かけも誘導も好きな話題を使用したり、笑顔などの態度面や、お礼やねぎらいを多用したり安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。方法の工夫については、特に温度や時間帯など習慣を考慮した方法の工夫が実施されている。環境の調整は、入浴人数、浴室温度など人的環境を含めた入浴環境の工夫が実施されていた。介護者については、信頼関係の構築や同性介護を実施しており、入浴支援が介護者の性

別や信頼関係などと強く影響していることが示唆された。入浴自体が欲求と直接的に関連した行為でない事から、誘導方法や介助者が解決のための主要な要因であることが明らかとなった。

入浴行為に関する課題解決について重要な視点は、入浴という行為自体が高齢者本人の個人的な価値観や習慣などと大きく関連しており、本人理解を前提として安心感を強めるような方法が有効であることが示唆されたといえるだろう。

### 3) 有効情報と解決方法の組み合わせ

入浴行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、清拭拒否課題11パターン、洗髪拒否課題13パターン、入浴拒否課題13パターンに分類された(表2-11-2-1、表2-11-2-2、表2-11-2-3参照)。さらに身体状況、心理、認知機能、性格、入浴状況、介護方法、人間関係の7つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、7つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、清拭・入浴・洗髪の工夫、介助者の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わせられてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。そして、有効情報の種類によらず実施される方法はほぼ共通している傾向が示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、湯温や清拭布の温度、浴室温度と入浴や清拭等の時間帯であった。全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

## 3. 排泄行為の課題解決に関する分析

### 1) 有効情報

排泄行為の課題解決における有効情報の傾向は、排泄誘導拒否、排泄介護拒否、放尿に共通している視点として心理や気分、職員との関係、介護者の声かけや対応が重要視される傾向が認められた。排泄誘導拒否における特徴は、排泄パターンが特に重要視されており、誘導タイミングの確認と考えられる。排泄介護拒否(パッド交換への抵抗)の特徴は、認知機能や抵抗時の様子、交換場所、性格を重視しており、認知機能や性格を課題の要因として考慮しながら、抵抗時の表情や様子を評価している傾向が明らかとなった。放尿における特徴は、尿意、排泄パターン、トイレの場所や表示を重視しており、環境面や健康面の情報が重要である傾向が明らかとなった。

以上の事から、排泄行為に関する課題は誘導や介護への抵抗や拒否といった課題については、職員との関係や誘導技法や交換方法についての改善につながる情報が有効であり、放尿については尿意感覚やトイレ環境に関する情報が重要である事が示唆さ



れた。

## 2) 解決方法

誘導拒否、介護拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、介助方法、介助者の工夫、その他に分類され、放尿に対しては声かけ、誘導の工夫、環境調整、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。誘導拒否と介護拒否への対応方法の共通傾向については、声かけや誘導は好きな話題を使用したり、排泄パターンを考慮したり、トイレと意識させないような工夫や、賞賛やねぎらいを多用したり、安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。介助方法の工夫については、手際よく素早く介助したり、介助者と信頼関係を深めたり、同性が介護するなどの工夫が実施されていた。放尿への対応については、排尿パターンに応じた誘導やトイレを視界に入れながらの誘導など誘導の工夫が実施され、あるいはトイレの表示を工夫したり、夜間の照明をつけたり、視界にはいるようにトイレの位置を改善したりなど環境面の工夫が特徴的であった。

排泄行為の特徴は、非常に個人のプライバシーに関わるという特性を有しており、介護者との関係性が大きく影響している点と、排泄パターンに応じた対応が有効であり排泄パターンの把握は欠かせないアセスメント視点である。そして、信頼関係を構築している介護者が、声かけや誘導などの工夫によって解決に至る傾向が明らかとなった。さらには、特に放尿については、トイレ環境の改善や工夫が放尿課題を解決する上で有効であることが示唆された。

## 3) 有効情報と解決方法の組み合わせ

排泄行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、誘導拒否課題11パターン、介護拒否課題11パターン、放尿課題12パターンに分類された(表2-11-3-1、表2-11-3-2、表2-11-3-3参照)。さらに誘導拒否については、疾病、心理、排泄状況、人間関係の4つに、介護拒否については、認知機能、疾患、心理、排泄状況、対応方法、職員との関係の6つに、放尿は排泄状況、環境、職員関係の3つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、いずれの課題についても、分類された情報項目すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整が実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。課題に特徴的な傾向は、誘導拒否や介護拒否課題については、声かけや誘導を実施する介護者の性別や信頼感が重要であることや、放尿については、排泄パターンや尿意感覚、トイレ環境の状態と解決方法が直接的に連動している傾

向が明らかとなった。

### 3. 課題全体における傾向

食事、入浴、排泄行為に関する課題解決に関するアセスメント視点の共通傾向として、全ての課題について高齢者の心理や興味、認知機能、様子、習慣、体調を基礎視点として、物理的環境や人間関係、職員の声かけや関わりなどの周辺状況を同時に組み合わせてアセスメントしている傾向が明らかとなった。各課題に特有の視点として、食事行為に関する課題では食事の方法や運動量、口腔状況を重視し、入浴行為に関する課題では、入浴方法や排泄、水分状況を重視し、排泄行為に関する課題では、排泄パターンを重視しており、各課題に特徴的なアセスメント視点が示唆された。

解決方法の傾向としては、上記のアセスメント視点に応じて、声かけや誘導方法の工夫や、物理的な環境、人間関係の調整、食事・入浴の方法に関する工夫、体調管理などを組み合わせて実施しており解決方法の組み合わせパターンの傾向が明らかとなり、食事、入浴、排泄行為の課題を解決するためのアセスメント視点及びケアの組み合わせモデルが明らかとなった。本研究の課題は、数量的な解析によってアセスメントの組み合わせと、アセスメントパターンに応じたケアの組み合わせを明らかにし、先行する解決事例からいわば、多数の解決事例の共通点を抽出しモデルとして整理したが、これらの結果の妥当性を実際の介護と照合し、汎用性を検証する必要があるだろう。



表2-11-1-1 食事過剰要求を解決する際の視点と方法の組み合わせ

身体状況	必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)		実施率	
		人的・物理的環境	必要な視点・留意点		
身体状況	「情緒・意志」 「体間」 「認知能力」 「本人の気持ち、意志」 「水分状態」 「満腹状況」 「運動量」 「体調」 「睡眠時間・状況」	食事の量 摂取状態に応じた食料調整 おやつや代替品を提供 食カローの間の間食や食事の提供 スタッフが一緒に食事をとる 味の感想を伺う 水分の摂取を増やす	隣の席から離れる 席の変更 スタッフが一緒に食事をとる 飯えを受理し、食器を多くする 待つておし寄せかけ 食後のレクリエーション活動への誘導 外出	29.9 6.7 15.7 14.8 8.0 13.1 8.1 4.6 11.2 15.4 5.4 5.7 6.4 18.6 34.6 21.2 14.8 7.3 10.7 6.4 13.4 5.6 13.8	
		体重の管理 食カローにして大盛りにした おやつや代替品を提供 水分の摂取を増やす 食カローの間の間食や食事の提供 飯えを受理し、食器を多くする 食後のレクリエーション活動への誘導 外出	隣の席から離れる 席の変更 おやつや代替品を提供 スタッフが一緒に食事をとる 飯えを受理し、食器を多くする 別の場所へ移動し食器を多くする 味の感想を伺う 食事時間の確認や説明を丁寧にする 外出	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9	
		「本人の気持ち、意志」 「心配事・不満状況」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「他の人聞きとの関係」 「スタッフとの関係」の人間関係 「気分」 「本人の気持ち、意志」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9
		「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「認知機能」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「食の嗜好・興味・意識」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「生活習慣(ここ数年)」 「生活歴(幼少期から)」 「本人の気持ち、意志」	6.7 4.5 7.3 7.4 16.0 11.0 12.4 10.3 9.1 6.8 5.9 5.8 6.4 7.0 11.9

表2-1-1-1-2 食事拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率
水分摂取	「水分状態」 「排泄状況」 「体調」	食事前にお茶を提供	本人ベースで声かけ	16.0
		食べやすいよう、盛りつけを工夫 カロリーを考慮し、おやつを提供 水分摂取量を増やした 活動量を増やす	本人ベースで声かけ 活動量を増やす ぐつすり眠ってもらうようにした 一睡、休憩	5.9 11.9 33.3 9.6
体調・運動量	「体調」 「睡眠時間・状況」 「運動量」 「排泄状況」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	25.3
		活動量を増やす	活動量を増やす	21.7
口腔機能	「本人の気持ち、意志」、「気分」 「咀嚼力」 「嚥下状態・誤嚥」 「口腔状況」 「食の嗜好・興味・意欲」 「食料の質(脂・固さ・味・匂い・温度)」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	4.9
		食べやすいよう、盛りつけを工夫 食料の形、色、味の工夫 咀嚼練習 嚥下練習	本人ベースで声かけ 食べやすいよう、盛りつけを工夫 食料の形、色、味の工夫 咀嚼練習 嚥下練習	4.2 23.3 15.4 7.0
睡眠	「睡眠時間・状況」 「運動量」 「体調」 「食の摂取、服薬状況」	ぐつすり眠ってもらうようにした	ぐつすり眠ってもらうようにした	40.4
		一睡、休憩	一睡、休憩	28.8
気持ち	「本人の気持ち、意志」 「気分」や「心配ごと、不満状況」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」	好きな場所で食事を取る	好きな場所で食事を取る	4.7
		本人ベースで声かけ 食事前からごまかに声かけ 声かけをせず、職員が一輪に 調理を手伝う コミュニケーションをふやす 好きな場所で食事を取る	本人ベースで声かけ 食事前からごまかに声かけ 声かけをせず、職員が一輪に 調理を手伝う コミュニケーションをふやす 好きな場所で食事を取る	28.6 4.2 7.3 4.1 9.3 7.6
認知機能	「認知症の症状」 「認知機能」 「認知症の種類」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「生活習慣」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	15.6
		食べやすいよう、盛りつけを工夫 水分摂取量を増やした 活動量を増やす コミュニケーションをふやす 食事内容、献立の説明 食べやすいよう、盛りつけを工夫 外出時、外食に誘導 好きな食べ物を提供する 好きな献立にする 声かけをせず、職員が一輪に 配膳をしてもらう 食事内容、献立の説明 食料の配置 食の嗜好・興味・意欲 本人の気持ち、意志	本人ベースで声かけ 食べやすいよう、盛りつけを工夫 水分摂取量を増やした 活動量を増やす コミュニケーションをふやす 食事内容、献立の説明 食べやすいよう、盛りつけを工夫 外出時、外食に誘導 好きな食べ物を提供する 好きな献立にする 声かけをせず、職員が一輪に 配膳をしてもらう 食事内容、献立の説明 食料の配置 食の嗜好・興味・意欲 本人の気持ち、意志	7.3 4.2 16.2 9.3 8.0 13.7 17.4 6.9 17.7 14.1 7.6 4.6 10.3 39.6 12.5 9.4 4.3 12.0 12.4 36.4 4.6 11.7 14.4 16.8 11.7 5.2 4.3
嗜好	「食の嗜好・興味・意欲」 「本人の気持ち、意志」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	4.3
		当日の食事量・おやつ量 「食の嗜好・興味・意欲」 「食中の様子」、「目録」 「食事内容の含み」、「目録」 「スタッフとの関係」	当日の食事量・おやつ量 「食の嗜好・興味・意欲」 「食中の様子」、「目録」 「食事内容の含み」、「目録」 「スタッフとの関係」	4.3 4.5

必要視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率
声かけ	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「気分」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	24.0
		食事前からごまかに声かけ 声かけをせず、職員が一輪に 好きな話題で声かけ 調理を手伝う ぐつすり眠ってもらうようにした コミュニケーションをふやす	食事前からごまかに声かけ 声かけをせず、職員が一輪に 好きな話題で声かけ 調理を手伝う ぐつすり眠ってもらうようにした コミュニケーションをふやす	4.3 10.0 8.0 4.6 4.2 13.5
席位置	「周囲の雰囲気、刺激(音・光・匂い)」 「床の広さ」 「他の入居者との関係」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	21.4
		好きな場所で食事を取る	好きな場所で食事を取る	12.6
人間関係	「家族関係」 「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	11.4
		活動量を増やす	活動量を増やす	8.1
家族、生活	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「家族関係」 「生活習慣(幼少期から)」 「心配ごと、不満状況」 「本人の気持ち、意志」 「所持金/経済不安」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	10.7
		好きな場所で食事を取る	好きな場所で食事を取る	5.1
生活層	「生活習慣(ご飯年)」、 「生活層(幼少期から)」 「最近の食習慣」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	コミュニケーションをふやす	コミュニケーションをふやす	10.5
		受け取り、安心してもらった	受け取り、安心してもらった	17.0
その他	「家族関係」 「生活層(幼少期から)」 「心配ごと、不満状況」 「本人の気持ち、意志」 「所持金/経済不安」	好きな話題で声かけ	好きな話題で声かけ	4.6
		好きな話題で声かけ 好きな献立にする コミュニケーションをふやす 受け取り、安心してもらった 好きな場所で食事を取る	好きな話題で声かけ 好きな献立にする コミュニケーションをふやす 受け取り、安心してもらった 好きな場所で食事を取る	10.1 24.5 4.6 16.6 4.9
その他	「生活習慣(ご飯年)」、 「生活層(幼少期から)」 「最近の食習慣」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	7.1
		本人ベースで声かけ	本人ベースで声かけ	4.9



表2-11-1-3 食事中断を解決する際の視点と方法の組み合わせ

体調・課題	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率	
身体状況	「体調」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「睡眠時間・状況」	急かさず、声かけの繰り返し ペースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る	14.2 16.6 24.6	
	排泄状況 「排便状況」 「水分摂取状況」 「気分」	食事前の活動を促す 本人の気持ちの確認、質問 食事前にトイレへ誘導	7.2 8.6 73.4	
	口遊機能 「咀嚼力」 「嚥下状態・誤嚥」 「口遊状況」 「食料の質(色・固さ・味・匂い・温度)」	食物の形態を変更 雑音の調整	67.3 15.3	
	嚥下機能 「嚥下状態・誤嚥」 「認知症の症状」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	急かさず、声かけの繰り返し ペースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る	7.8 17.3 16.3	
	活動量 「運動量」 「体調」 「水分摂取状況」 「排便状況」 「満腹感、空腹感」	食物の形態を変更 無理に促さず、見守る 食事前の活動を促す	11.6 8.7 7.8 55.1	
	心理面 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「心配ごと・不満」	食事前にトイレへ誘導 急かさず、声かけの繰り返し ペースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る	11.0 6.4 11.5 10.4	
	認知機能 視力・姿勢 「目線」 「認知機能」 「姿勢」 「本人の気持ち、意志」 「視力・視覚機能」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	急かさず、声かけの繰り返し 食事の認識を促す ペースが一瞬の利用者と 職員と一緒に 食物の形態を変更	7.5 14.1 12.3 11.0 4.2 4.2	
	食事の嗜好	食器の色や味、意欲 「気分」	食器の色や味を調える 静かな環境で イス、テーブルの高さ調整 食事の認識を促す	5.0 12.6 8.0 19.1
	食習慣	「生活習慣(ご飯年)」 「生活歴(年少期から)」 「家族関係」 「本人の気持ち、意志」 「食の嗜好・興味・意欲」	好みのものにする ペースを尊重し、食事の促し 家族の名前を出して誘導する 好みのものにする 好きな場所で	19.1 6.4 11.1 13.6 5.1
	食事状況	「食器の配置」 「食料」 「食料の質(色・固さ・味・匂い・温度)」 「認知機能」	食事に関する思い出しを家族から聞く ペースを尊重し、食事の促し 食事の認識を促す 食器の色や味を調える 食物の形態を変更 食器の色や味を調整	17.3 5.8 15.2 16.2 7.4 14.0

食事状況	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
食事状況	「食事量」 「当日の食事量、おやつ量」 「満腹感、空腹感」 「盛り」 「食の嗜好・興味・意欲」 「食料の質(色・固さ・味・匂い・温度)」	ペースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る 食事の認識を促す ペースを一瞬止め、待つ 食器の色や味を調える 好みのものにする	6.5 18.3 6.0 4.7 21.7 9.7
	「食事」 「食料の質(色・固さ・味・匂い・温度)」 「食の嗜好・興味・意欲」 「盛り」 「食料の質(色・固さ・味・匂い・温度)」	ペースを尊重し、食事の促し 食事の認識を促す 食物の形態を変更 仲の良い人と食べる 職員と一緒に 好きな場所で 静かな環境で	22.3 8.4 32.4 13.1 9.2 21.8 10.6
	物理的・人的環境 「食中の様子」 「周囲の刺激」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)」	急かさず、声かけの繰り返し ペースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る ペースを一瞬止め、待つ 仲の良い人と食べる 好きな場所で 静かな環境で	8.4 7.0 11.6 7.4 8.1 9.8 8.6
	人間関係 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」 「食事中の生活」	ペースを尊重し、食事の促し 仲の良い人と食べる 職員と一緒に 好きな場所で	8.9 8.0 28.4 10.6

表2-11-2-1 清拭拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

		必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
身体状況	清潔度	清潔度 「皮膚状態」 「失禁有無」 「褥瘡状況」	トイレ時に実施 薬を塗るため 清潔・血行など効果の説明 1人で 履かいたオルを渡し自分で 「スタッフとの関係」 「清潔状況」 「清潔能力」	21.6 20.5 22.9 6.0 5.5 14.8 5.9 5.4
	心理	「清潔・安心」 「本人の気持ち、意志」 「気分」	清潔・血行など効果の説明 声かけを簡単に 信頼関係が出来ている介助者 コンプレックスを軽減 気持ちをつつらがる 家族からの依頼のため 内科受診のため	13.5 12.2 17.4 5.9 16.9 10.3
性格	性格	「性格」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「清潔・安心」 「清潔・安心」 「清潔能力」	部分から開始 気持ちをつつらがる 清潔・血行など効果の説明 声かけを簡単に 信頼関係が出来ている介助者 コンプレックスを軽減 気持ちをつつらがる 家族からの依頼のため 内科受診のため	6.7 6.2 7.7 7.9 6.9 6.0 8.0 9.5 19.7 6.8 7.1 7.7
	清潔度の温度	「気分」 「清潔タオルの温度」 「本人の気持ち、意志」	履かいたタオルを渡し自分で 部分から開始 トイレ時に実施 気持ちをつつらがる 薬を塗るため 声かけの温度の工夫 温度調整	6.4 6.2 5.0 9.3 5.6 8.9 12.9
清拭・入浴方法	入浴習慣	「家族関係」 「入浴習慣(自宅)」 「浴室環境(自宅)」	清潔・血行など効果の説明 部分から開始 家族からの依頼 内科受診のため 温度調整 信頼関係が出来ている介助者 家族の協力 コンプレックスを軽減	12.5 5.9 22.9 8.8 10.0 6.4 16.5
	入浴習慣	過去の入浴体験 「生活歴(幼少期から)」 「入浴習慣(自宅)」 「本人の気持ち、意志」 「認知機能」 「家族関係」	トイレ時に実施 気持ちをつつらがる 家族からの依頼 内科受診のため 他者から誘導 声かけを簡単に 清潔に誘う 清潔タオルの温度 信頼関係が出来ている介助者 コンプレックスを軽減	5.2 5.1 9.3 5.4 10.0 10.2 5.0 5.7 5.0 7.7 8.6 5.8

		必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
介護・対応	介護者の性別	「気分」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「介護者の性別」 「興味・関心」 「言語理解」	部分から開始 トイレ時に実施 気持ちをつつらがる 清潔・血行など効果の説明 声かけを簡単に お礼やねぎらいを 1人で 信頼関係が出来ている介助者 コンプレックスを軽減	5.2 5.3 17.0 16.7 11.0 7.2 14.6 13.7 5.9
	介護者の性別	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「介護者の性別」 「下着の状況」 「気分」 「失禁有無」 「清潔・安心」 「清潔・安心」	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「生活歴(幼少期から)」 「言語理解」 「失禁有無」 「清潔・安心」 「清潔・安心」	13.1 7.7 17.0 5.4 7.3 5.0 6.1 15.9
人間関係	声かけ方法	「本人の気持ち、意志」 「気分」 「生活歴(幼少期から)」 「言語理解」	部分から開始 気持ちをつつらがる 家族からの依頼 声かけの温度の工夫 温度調整 清潔場所の調整 1人で コンプレックスを軽減	5.6 5.6 17.8 8.4 5.3 6.0 6.0 5.3
	スタッフ関係	「性格」 「スタッフとの関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」	家族からの依頼 声かけの温度の工夫 お礼やねぎらいを 信頼関係が出来ている介助者 コンプレックスを軽減 他者から誘導 清潔場所の調整 1人で 信頼関係が出来ている介助者 家族のスタッフ コンプレックスを軽減	5.6 15.5 15.4 20.7 11.6 22.0 5.3 27.1 6.1 5.4 17.5



表2-11-2-2 洗髪拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

身体状況	清潔度、皮膚状態	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
認知機能	清潔度、皮膚状態	「清潔度」 「本人の気持ち、意志」 「皮膚状態」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」	一部分から 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お札やねざらい 好きな話題で会話しながら 洗髪の効用を説明 コンプレックスを認識 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お札やねざらい	12.3 7.2 8.2 5.3 8.6 34.7 5.2 8.3 11.3 11.1
		「認知機能」 「介護者の性別」 「本人の気持ち、意志」 「気分」	コンプレックスを認識 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お札やねざらい	5.2 8.3 11.3 11.1
		「性格」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」	好きな話題で会話しながら 洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 お札やねざらい	7.2 5.8 10.2 10.7
		「気分」 「本人の気持ち、意志」 「興味・関心」	コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 不安を軽減しながら 洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 単独な声かけ お札やねざらい	10.3 7.1 5.7 6.0 5.7 7.8 11.6 5.5 12.2
		「興味・関心」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「入浴のこだわり」 「入浴時間差」 「スタッフとの関係」	一部分から 洗髪後の手入れを行う 髪を乾かすため 好きな話題で会話しながら 1人で 複数のスタッフ 顔に湯がかからない工夫 一部分から 不安を軽減しながら 浴室温度調整 湯器調整 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	5.4 7.2 7.7 7.9 10.8 8.6 7.2 8.3 21.4 9.9 13.7 39.7 5.3 78.5 8.8 17.3 7.8 15.5 8.7 8.0 31.8 15.7
		「清潔の温度」 「本人の気持ち、意志」	湯器調整	39.7
		「清潔の湿度」 「本人の気持ち、意志」	湯器調整	78.5
		「清潔の温度」 「本人の気持ち、意志」 「入浴時間差」 「介護者の人数」	湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.8 17.3 7.8 15.5
		「洗髪した日」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフとの関係」	声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.7 8.0 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6
		「洗髪した日」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフとの関係」	声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.7 8.0 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6
「洗髪した日」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフとの関係」	声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.7 8.0 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6		

身体状況	清潔度、皮膚状態	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
認知機能	清潔度、皮膚状態	「清潔度」 「本人の気持ち、意志」 「皮膚状態」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」	洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 お札やねざらい 好きな話題で会話しながら 洗髪の効用を説明 コンプレックスを認識 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お札やねざらい	5.3 20.0 9.2 14.6 6.8 5.9 21.6 17.4 6.4 24.2
		「認知機能」 「介護者の性別」 「本人の気持ち、意志」 「気分」	コンプレックスを認識 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お札やねざらい	5.9 8.3 11.3 11.1
		「性格」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」	好きな話題で会話しながら 洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 お札やねざらい	8.5 5.8 10.2 10.7
		「気分」 「本人の気持ち、意志」 「興味・関心」	コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 不安を軽減しながら 洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 単独な声かけ お札やねざらい	10.3 7.1 5.7 6.0 5.7 7.8 11.6 5.5 12.2
		「興味・関心」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「入浴のこだわり」 「入浴時間差」 「スタッフとの関係」	一部分から 洗髪後の手入れを行う 髪を乾かすため 好きな話題で会話しながら 1人で 複数のスタッフ 顔に湯がかからない工夫 一部分から 不安を軽減しながら 浴室温度調整 湯器調整 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	5.4 7.2 7.7 7.9 10.8 8.6 7.2 8.3 21.4 9.9 13.7 39.7 5.3 78.5 8.8 17.3 7.8 15.5 8.7 8.0 31.8 15.7
		「清潔の温度」 「本人の気持ち、意志」	湯器調整	39.7
		「清潔の湿度」 「本人の気持ち、意志」	湯器調整	78.5
		「清潔の温度」 「本人の気持ち、意志」 「入浴時間差」 「介護者の人数」	湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.8 17.3 7.8 15.5
		「洗髪した日」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフとの関係」	声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.7 8.0 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6
		「洗髪した日」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容、見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「洗髪への反応・様子」 「スタッフとの関係」	声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ コンプレックスを認識 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかったり、洗身してから 浴室温度調整 湯器調整	8.7 8.0 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6

表2-11-2-3 入浴拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率
身体状況	体調	「朝晩・昼・夜」 「本人の気持ち・意志」 「認知機能」	本人の状態に応じた時間 入浴前コミュニケーション 暖まるからと声かけ 入浴中のコミュニケーションを増やす 浴室温度を調整 湯温の調整 拒否の理由伺う	5.4 5.8 11.0 7.8 13.0 9.4 12.8 33.6 6.6 16.9
	失禁の有無	「失禁の有無」 「清潔感」 「清潔な状況」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち・意志」	トイレ指導時に一緒に 段階的な指導	6.5 6.6
	気分	「本人の気持ち・意志」 「スタッフとの関係」「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「興味・関心」	入浴前コミュニケーション 繰り返し指導 入浴中のコミュニケーションを増やす 笑顔でゆっくり	12.0 5.8 8.5 9.4
	興味・関心	「興味・関心」 「本人の気持ち・意志」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「生活歴(物少期から)」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション 趣味活動を奨励した 本人の状態に応じた 繰り返し指導	6.1 14.7 8.8 6.9 7.5
	認知機能	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「気分」 「信頼関係」 「認知機能」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション 繰り返し指導 浴室へ誘導し認識を促す 入浴中のコミュニケーションを増やす 笑顔でゆっくり	10.1 8.1 5.8 6.2 7.0 7.8
	性格	「性格」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち・意志」 「気分」 「性別」 「認知機能」	繰り返し指導 入浴中のコミュニケーションを増やす 笑顔でゆっくり お礼やねぎらい 複数のスタッフ スタッフを分けた 拒否の理由伺う	6.5 5.3 10.3 12.4 5.9 5.1 5.6
	人間関係	「気分」 「興味・関心」 「他の入居者との関係」 「家族関係」	家族から入浴情報を得る 薬を渡すため、医師の指示 家族の面会・依頼 他者から依頼 仲の良い人と一緒に	5.7 6.2 6.9 8.3 5.5

必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率	
入浴状況	入浴習慣	「入浴習慣(自覚)」 「生活歴(物少期から)」 「過去の入浴体験」 「入浴のこだわり」 「本人の気持ち・意志」	過去の入浴時間 本人の状態に応じた時間 家族から入浴情報を得る 目や耳などを保護 入浴習慣を取り入れる 浴室温度を調整 湯温の調整	6.7 6.4 15.3 5.2 7.1 5.0 6.7	
	入浴方法	「湯温」 「浴室の温度」 「入浴のこだわり」	暖まるからと声かけ 徐々に湯温をかける	6.5 7.7	
	入浴時間	「気分」 「本人の気持ち・意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「入浴時間帯」	湯温の調整 過去の入浴時間 本人の状態に応じた時間 入浴前コミュニケーション 趣味活動を奨励した トイレ指導時に一緒に 本人の状態に応じた 繰り返し指導	30.7 7.5 8.5 8.4 6.8 5.5 7.1 6.3 13.2	
	入浴状況	「入浴時間帯」 「気分」 「本人の気持ち・意志」 「入浴のこだわり」	過去の入浴時間 本人の状態に応じた時間 入浴前コミュニケーション 繰り返し指導 仲の良い人と一緒に 一人で 拒否の理由伺う	21.3 8.0 8.2 5.1 5.9 6.1	
	温度	「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「湯温」 「浴室の温度」 「お礼やねぎらい」 「本人の気持ち・意志」	本人の状態に応じた時間 入浴前コミュニケーション 暖まるからと声かけ 本人の状態に応じた 繰り返し指導 浴室へ誘導し認識を促す 身体の一部から 段階的な指導 段階的なコミュニケーションを増やす 笑顔でゆっくり 徐々に湯温をかける 浴室温度を調整	5.8 11.8 6.0 6.1 5.1 5.7 6.1 7.1 5.7 6.6 5.6 5.7 5.1	
	その他	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション 繰り返し指導 入浴中のコミュニケーションを増やす 笑顔でゆっくり お礼やねぎらい お礼やねぎらい 複数のスタッフ スタッフを分けた	6.0 8.1 10.1 8.1 6.3 6.9 5.5	
	その他				



表2-11-1-3-1 排泄誘導拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

疾病	病歴	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	要諦率
疾病	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	19.6
			外出してから	18.5
排泄状況	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	18.8
			外出してから	18.5
			衛生・衣類の説明	18.8
			服装・既往歴	39.2
			排便状況	40.6
			排便状況	12.5
			失禁者数	15.3
			水分状態	17.2
			便の状態	14.3
			障害・排便感覚	5.7
排泄状況	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	必要な視点・留意点	9.9
			「スタッフの声かけ内容・見守り方」	13.8
			「本人の気持ち、意志」	5.2
			「障害・排便感覚」	7.1
			「生活歴(こ・こ・数年)」	17.2
			「本人の行動・状態に応じて」	14.3
			「外出してから」	7.7
			「衛生・衣類の説明」	8.1
			「服装・既往歴」	10.6
			「排便状況」	8.3
排泄状況	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	10.6
			外出してから	8.3
			衛生・衣類の説明	7.8
			服装・既往歴	7.0
			排便状況	10.2
			排便状況	12.9
			失禁者数	11.8
			水分状態	8.0
			便の状態	35.1
			障害・排便感覚	41.7
排泄状況	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	定時声かけ	27.4
			排便状況	14.9
			排便状況	14.0
			失禁者数	5.8
			水分状態	5.0
			便の状態	5.2
			障害・排便感覚	13.1
			本人の気持ち、意志	7.7
			生活歴(幼少期から)	23.6
			スタッフの声かけ内容・見守り方	9.6
様子	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	10.1
			外出してから	7.6
			衛生・衣類の説明	12.4
			服装・既往歴	5.9
			排便状況	8.0
			排便状況	10.6
			失禁者数	11.1
			水分状態	9.3
			便の状態	7.8
			障害・排便感覚	11.7
様子	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	12.0
			外出してから	8.8
			衛生・衣類の説明	12.0
			服装・既往歴	8.0
			排便状況	19.0
			排便状況	13.7
			失禁者数	25.5
			水分状態	11.7
			便の状態	11.7
			障害・排便感覚	11.7

疾病	病歴	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	要諦率
疾病	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	5.0
			外出してから	9.3
排泄状況	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	5.1
			外出してから	5.1
			衛生・衣類の説明	9.2
			服装・既往歴	7.0
			排便状況	13.4
			排便状況	13.4
			失禁者数	19.2
			水分状態	7.1
			便の状態	7.1
			障害・排便感覚	7.1
排泄状況	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「親善・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	「本人の行動・状態に応じて」 「外出してから」 「衛生・衣類の説明」 「服装・既往歴」 「排便状況」 「排便状況」 「失禁者数」 「水分状態」 「便の状態」 「障害・排便感覚」 「本人の気持ち、意志」	本人の行動・状態に応じて	5.4
			外出してから	10.2
			衛生・衣類の説明	9.0
			服装・既往歴	13.4
			排便状況	13.4
			排便状況	13.4
			失禁者数	11.1
			水分状態	11.1
			便の状態	11.1
			障害・排便感覚	9.9

表2-1-1-3-2 排泄介護拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

場	場	必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
認知機能	場所	「本人の気持ち、意志」 「性格」 「認知機能」	トイレの言葉禁止	16.7
			トイレに誘う	22.5
見当識	介護性別	「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	排泄ボタンに声かけ	7.4
			本人だけに声かけ	7.7
			好きな話題で声かけ	22.6
			事前に確認	8.1
			排泄ボタンの下着交換	11.9
			本人だけに声かけ	7.7
			家族からの言葉	6.4
			トイレ時の下着交換	21.4
			排泄ボタンの流れ	17.2
			信頼関係のある職員が	6.7
心理	声かけ	「介護者の役割」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	トイレに誘う	9.8
			トイレに誘う	10.2
			排泄ボタンに声かけ	13.7
			本人だけに声かけ	10.1
			事前に確認	9.7
			排泄ボタンの流れ	9.8
			交換後の処理をすばやく	9.8
			信頼関係のある職員が	15.3
			安心できる場所で	9.8
			トイレに誘う	6.2
興味	関係	「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	排泄ボタンに声かけ	7.1
			本人だけに声かけ	18.8
			好きな話題で声かけ	5.3
			交換後の処理をすばやく	35.2
			信頼関係のある職員が	7.0
			トイレの言葉禁止	17.3
			本人だけに声かけ	6.1
			好きな話題で声かけ	16.4
			排泄ボタンの流れ	7.7
			信頼関係のある職員が	18.2

場	場	必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
認知機能	場所	「本人の気持ち、意志」 「性格」 「認知機能」	トイレの言葉禁止	9.8
			トイレに誘う	5.8
			排泄ボタンに声かけ	9.7
			本人だけに声かけ	14.3
			好きな話題で声かけ	8.0
			事前に確認	10.9
			排泄ボタンの下着交換	7.9
			本人だけに声かけ	8.9
			家族からの言葉	13.1
			トイレ時の下着交換	5.3
見当識	介護性別	「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	トイレの言葉禁止	7.3
			トイレに誘う	8.5
			排泄ボタンに声かけ	12.8
			本人だけに声かけ	15.6
			好きな話題で声かけ	8.8
			交換後の処理をすばやく	8.1
			ケア方法の統一	5.2
			安心できる場所で	18.4
			トイレの言葉禁止	6.2
			トイレに誘う	5.3
心理	声かけ	「介護者の役割」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	排泄ボタンに声かけ	12.0
			本人だけに声かけ	7.2
			好きな話題で声かけ	17.6
			トイレ時の下着交換	5.1
			排泄ボタンの流れ	9.7
			信頼関係のある職員が	12.0
			安心できる場所で	5.2
			トイレに誘う	13.7
			排泄ボタンに声かけ	7.8
			本人だけに声かけ	6.9
疾患	関係	「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	好きな話題で声かけ	28.3
			トイレ時の下着交換	0.0
			排泄ボタンの流れ	5.9
			信頼関係のある職員が	6.6
			薬の投与	24.7
			トイレに誘う	11.4
			排泄ボタンに声かけ	17.7
			トイレ時の下着交換	10.7
			排泄ボタンの流れ	11.2
			トイレに誘う	7.0
排泄ボタン	関係	「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	トイレの言葉禁止	18.8
			排泄ボタンに声かけ	38.9
			本人だけに声かけ	5.9
			好きな話題で声かけ	8.2
			交換後の処理をすばやく	5.1
			信頼関係のある職員が	5.1
			トイレの言葉禁止	7.9
			本人だけに声かけ	9.4
			好きな話題で声かけ	13.2
			排泄ボタンの下着交換	7.4
様子	関係	「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」 「羞恥感」	事前に確認	7.9
			排泄ボタンの流れ	5.3
			信頼関係のある職員が	15.1



表2-11-3-3 放尿を解決する際の視点と方法の組み合わせ

		必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
排泄状況	排泄パターン	「排泄間隔」 「排泄頻度」	排尿パターンに応じ	63.7
			誘導回数を増やす	23.2
	間隔頻度	「排泄間隔」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「排泄頻度」 「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」	排尿パターンに応じ	24.4
			誘導回数を増やす	27.1
			状態に応じた	32.4
			繰り返し説明	8.4
	失禁尿意	「排泄・排尿時間」 「排泄間隔」 「尿意・排泄感覚」 「失禁有無」 「水分状態」 「本人の気持ち、意志」	排尿パターンに応じ	47.5
			誘導回数を増やす	26.7
			状態に応じた	15.2
	尿意	「尿意・排泄感覚」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	排尿パターンに応じ	11.8
			状態に応じた	45.8
			繰り返し説明	9.5
排泄習慣	「生活状況(数日内)」 「排泄・排尿時間」 「排泄間隔」 「睡眠時間・状況」	排尿パターンに応じ	34.8	
		誘導回数を増やす	11.5	
		状態に応じた	30.4	
		ポータブルトイレ	4.9	
		薬調整、受診	6.3	
		オムツパッドへの変更	4.7	
様子	表情様子	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「放尿時の様子」 「放尿時の表情」	排尿パターンに応じ	10.1
		誘導回数を増やす	9.1	
		状態に応じた	41.1	
		ポータブルトイレ	10.3	
	様子	「放尿時の様子」 「本人の気持ち、意志」 「尿意・排泄感覚」 「排泄場所」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	繰り返し説明	11.6
			状態に応じた	45.7
環境	トイレ環境	「トイレの表示」 「トイレの場所」 「トイレの扉」	トイレが見えるよう	13.3
			ポータブルトイレ	3.5
			夜間照明	20.2
			トイレ表示の工夫	50.1
	トイレ場所	「トイレの場所」 「排泄場所」 「排泄・排尿時間」 「歩行・下肢機能」 「本人の気持ち、意志」	排尿パターンに応じ	8.4
			誘導回数を増やす	8.0
			状態に応じた	7.4
			ポータブルトイレ	21.3
			トイレの位置調整	9.2
			夜間照明	15.0
	場所	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「トイレの場所」 「トイレの表示」 「スタッフとの関係」 「排泄場所」 「見当識」	繰り返し説明	12.0
			状態に応じた	15.4
トイレが見えるよう			8.3	
トイレの位置調整			7.6	
夜間照明			13.8	
トイレ表示の工夫			21.1	
表示	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「生活習慣(ここ数年)」 「トイレの表示」	繰り返し説明	22.0	
		状態に応じた	14.8	
		トイレが見えるよう	9.4	
		ポータブルトイレ	6.0	
		トイレの位置調整	6.5	
		夜間照明	9.0	
職員関係	スタッフ関係	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフとの関係」 「気分」	トイレ表示の工夫	29.2
		排尿パターンに応じ	9.5	
		誘導回数を増やす	8.8	
		状態に応じた	44.7	
			繰り返し説明	11.0

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）  
分担研究報告書

認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究

研究分担者 佐々木心彩（日本大学文理学部人文科学研究所）

研究要旨

本研究では、認知症高齢者の日常生活におけるケアに対する反応を介護者がどのような側面からとらえているかを把握し、ケアのアウトカム指標作成の基礎資料とすることを目的とし、全国の認知症介護指導者を調査対象者として郵送調査を行った。ケアに対する利用者の反応として、非言語的側面 45 項目に対する感情状態の評価と表出の頻度についての回答を求めた。

その結果、介護者は笑顔、スキンシップ、視線を合わせるといった行動・様子から利用者の快感情を推測し、実際にこれらの行動・様子が利用者にみられる頻度も高いということが示された。また、不快な感情の表出が認められる頻度は全般的に低いものであったが相対的な頻度の高いものとしては、乱暴な言葉づかい、大きな声を出すという行動・様子は不快感情を推測するものであるということが示された。しかしながら、それぞれの行動・様子が、単一の側面のみでは評価が困難であることや場面・状況に応じて快にも不快にも判断されうるということが考えられ、高齢者全般に適用可能な項目のほかに、判断の分かれる項目や不快と判断されるものの出現頻度の低い項目をもとにした対象者の観察から、個別項目として取捨選択し、アウトカム指標として検討する必要性がある。

A. 研究目的

高齢者介護研究会（2003）による報告書「2015 年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～」では、要介護高齢者のケアにおいては、身体ケアに加えて認知症高齢者に対応したケアを標準として位置付けていくことが重要目標として掲げられている。そして、認知症高齢者ケアの標準化、方法論の確立が大きな課題となっている。

これらを進めるためには、高齢者の状態の適切なアセスメント、それにもとづいた適切なケア、さらに結果の評価方法を確立することが必要となる。

本研究では、認知症高齢者に対するケアの結果の評価として、個々のケア行為に対する高齢者の反応を短期的なアウトカムととらえることを試み、アウトカム評価指標作成のための基礎資料とすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査対象者について



## 1) 認知症介護指導者

認知症介護指導者は2000年より始まった認知症介護研修事業における認知症介護指導者養成研修を修了された、都道府県政令指定都市の認知症介護を指導するエキスパートとして、各地域の認知症介護研修（実践者研修、実践リーダー研修、管理者研修、計画作成担当者研修、開設者研修）を企画しつつ、講義、演習、実習等の講師やファシリテーターを担当し、担当地域の介護保険施設・事業所等における認知症介護の質の改善について指導や助言を現在実践しており、全国で約1000名程度活躍している（平成19年度11月現在）。

認知症介護指導者養成研修の受講要件として以下の4つの条件を全て満たすこととされ、非常に厳格な条件が決められており、さらに各行政担当者の推薦を要する。

- (1) 医師、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、言語聴覚士または精神保健福祉士いずれかの資格を有する者、またはこれに準ずる者。
- (2) 下記のいずれかの要件に該当する者であって、相当の介護実務経験を有する者
  - ①介護保険施設・事業所等に従事している者（過去において介護保険施設・事業所等に従事していた者も含む。）
  - ②福祉系大学や養成学校等で指導的立場にある者
  - ③民間企業で認知症介護の教育に携わる者
- (3) 認知症介護実践者研修並びに認知症介護実践リーダー研修を修了した者（基礎課程並びに専門課程を修了した者を含む）、又はそれと同等の能力を有すると実施主体が認めた者
- (4) 認知症介護実践研修の企画・立案に参画または講師として従事することが予定されている者

以上の条件に合致し、さらに全国3か所設置されている認知症介護研究・研修センターにて10週間の認知症介護指導者用カリキュラムを受講し修了したものが認知症介護指導者として認められることになる。

認知症介護エキスパートの要件として認知症介護指導者の要件はライセンス、教育経験ともに合致しており認知症介護指導者を認知症介護エキスパート候補としてみなすこととし、本研究の対象とした。

## 2) 調査対象者

平成13年度1回目～平成19年度1回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者894名を対象とした。

## 2. 調査方法

### 1) 調査期間

調査期間は平成 20 年 12 月であった。

## 2) 手続き

調査対象者が所属する事業所に調査用紙を郵送にて配布し、記入後に返送により回収する郵送法によって実施した。

## 3. 調査項目

調査項目は以下の通りであった。

### 1) 対象者の基本属性

対象者の基本属性として、年齢、性別、職種、役職、所有資格、所属事業所の事業種、現事業所の勤続年数、介護経験期間について回答を求めた。

### 2) 評価対象者の属性

利用者の中から 1 名を選択し、その利用者に対するケアの評価について回答を求めた。選択した高齢者に関する属性として、年齢、性別、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度について回答を求めた。

### 3) 非言語的側面に対する認識

利用者の中から選択した 1 名の高齢者に対してケアを行った際にみられる反応の中で、非言語的な側面についての感情（快—不快）の評価と日常的に実際に見られる頻度について回答を求めた。感情評価については、「a 快」、「b 不快」、「c どちらともいえない」の中から選択するよう求めた。頻度については、「5 いつもみられる」、「4 たいていみられる」、「3 ときどきみられる」、「2 あまりみられない」、「1 まったくみられない」の中から選択するよう求めた。

### 4) 高齢者の感情状態把握のためのその他の手がかりについて

3) に挙げた 45 の側面のほか、高齢者の感情状態を把握するための手がかりを自由記述によって回答を求めた。

### 5) 認知症ケアに対する意識

認知症ケアに対する意識をたずねる項目として、パーソンセンタードケアにおける相互作用を持続させる関わりと、相互作用を中断させる関わり方に関する 17 項目に対して回答を求めた。

### 6) 認知症介護について

認知症介護の経験について、認知症介護の経験期間、認知症介護を実際に行った直近日、現在行っている認知症介護の頻度、認知症介護の成功体験の頻度に対する回答を求めた。

## (倫理面への配慮)

本研究では、調査協力者である介護職員等に対して、個人情報の取り扱いや人権擁護に配慮し、十分なインフォームドコンセントを保証することを最優先し、研究等によって被



ることが予測される不利益について説明文書を作成し、十分な説明を行い、文書にて同意を得ることとしている。

## C. 結果と考察

### 1. 調査協力者について

調査対象者 894 名のうち、271 名から調査票が回収された（回収率 30.3%）。すべてが未回答であった調査票を除き有効回答数は 270 名であった。調査協力者の属性は以下の通りであった。

#### 1) 年齢

調査協力者の平均年齢は 44.39 歳 (SD:10.81、範囲 26-87; 男性 38.4 歳 [SD:9.3]、女性 47.5 歳 [SD:10.3]) であった。

#### 2) 性別

調査協力者の性別は、男性 91 名、女性 177 名、不明 2 名であった。(表 3-1 参照)

#### 3) 職種

現在の職種（複数回答）は、ケアワーカー 65 名（全体の 24.1%）、相談員 40 名（全体の 14.8%）、ケアマネジャー 68 名（全体の 25.2%）、看護師 52 名（全体の 19.3%）、その他 60 名（全体の 22.2%）であった。(表 3-2 参照)

#### 4) 役職

現在の役職（複数回答）は、施設長 28 名（10.4%）、管理者 91 名（33.7%）、主任・リーダー 76 名（28.1%）、事務長 3 名（1.1%）、社長 5 名（1.9%）、理事長 2 名（0.7%）、その他 66 名（24.4%）であった。(表 3-3 参照)

#### 5) 資格

現在の所持資格（複数回答）は、看護師（准看護師）66 名（24.4%）、介護福祉士 156 名（57.8%）、社会福祉士 45 名（16.7%）、ケアマネジャー 171 名（63.3%）、ヘルパー 29 名（10.7%）、理学療法士 2 名（0.7%）、作業療法士 3 名（1.1%）、栄養士 2 名（0.7%）、その他 37 名（13.7%）であった。(表 3-4 参照)

#### 6) 事業種

現在勤務している事業所の事業種（複数回答）は、介護老人福祉施設 84 名（31.1%）、介護老人保健施設 131 名（48.5%）、介護療養型医療施設 7 名（2.6%）、通所介護事業 31 名（11.5%）、通所リハビリ事業 6 名（2.2%）、訪問介護事業 16 名（5.9%）、認知症対応型共同生活介護 65 名（24.1%）、小規模多機能型共同生活介護 13 名（4.8%）、居宅介護支援事業所 24 名（8.9%）、地域包括支援センター 3 名（1.1%）、市役所 2 名（0.7%）、宅老所 2 名（0.7%）、特定入居者生活介護事業 3 名（1.1%）、その他 27 名（10.0%）であった。(表 3-5 参照)

#### 7) 現事業所の勤続期間

現在勤務中の事業所の平均勤続期間は、約 9 年 6 か月 (114.31 か月 [SD81.03、範囲 3-404]) であった。

#### 8) 総介護経験期間

総介護経験期間の平均は、約 14 年 (167.80 か月 [SD90.77、範囲 9-564]) であった。

### 2. 想定した利用者についての属性

評価対象として利用者の中から 1 名の高齢者の選択を求めたが、高齢者の属性については以下の通りであった。

#### 1) 年齢

高齢者の平均年齢は、83.3 歳 (SD:8.1) であった。

#### 2) 性別

高齢者の性別ごとの人数は、男性 60 名、女性 200 名、不明 10 名であった。(表 3-6 参照)

#### 3) 認知症高齢者の日常生活自立度

選択した高齢者の認知症高齢者の日常生活自立度について 267 名から有効回答が得られ、I が 14 名 (5.2%)、II が 65 名 (24.3%)、III が 92 名 (34.5%)、IV が 88 名 (33.0%)、M が 8 名 (3.0%) であった。(表 3-7 参照)

#### 4) 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)

選択した高齢者の障害高齢者の日常生活自立度について 264 名から有効回答が得られ、J が 68 名 (25.8%)、A が 159 名 (60.2%)、B が 32 名 (12.1%)、C が 5 名 (1.9%) であった。(表 3-8 参照)

### 3. 高齢者の感情状態の評価について

「2.」で想定した利用者の中から選択した 1 名の高齢者について、ケアを行った際の様子について評価を求めた。それぞれの項目に示した行動、様子が見られた場合に、どのような感情状態であると推測するかについて「快」-「不快」または「どちらともいえない」の中から当てはまるものを選択するよう求めた。さらに、日常の介護において実際にどのくらいの頻度で項目に示した行動、様子がみられるかについて回答を求めた。

#### 1) 各項目について

##### (1) 視線を合わせる、顔を見つめる

ケアに対する利用者の反応として「視線を合わせる、顔を見つめる」についての有効回答は 265 名であり、推測する感情状態は、「快」173 名 (65.3%)、「不快」12 名 (4.5%)、「どちらともいえない」80 名 (30.2%) であった。頻度については、「全くみられない」1 名 (0.4%)、「あまりみられない」6 名 (2.3%)、「と